

# 南極をめぐる科学と国際 動向を考える研究会

(南極国際動向研究会)

第3回研究会2019年3月14日(ROIS会議室)

柴田明穂・神戸大学極域協力研究センター(PCRC)



# 次回予定

- **第4回研究会：**

日程候補：2019年6月6日（木）か12日（水）15:30～17:30  
会場：情報システム研究機構会議室

- **テーマ：**第42回ATCM（7/1-11、チェコ）をめぐる南極の科学と国際動向の最新状況
- **報告者：**募集中。政府関係者から「関心事項」と関連情報提供があつても良いか。

# 第12回極域法シンポジウム・報告募集

- 2019年12月1日～4日、タスマニア・ホバート
- 4月30日〆切り：報告ないしパネル提案

本研究会での報告をベースにした報告ないしパネルの提案を検討してみませんか？例えば、「南極大型ロジ施設と国際法政策」など。

国際プロジェクトPoLSciNexから若手研究者への奨励金\$500あり。

**12TH POLAR LAW SYMPOSIUM**  
*The Fundamental Principles of Polar Law*

HOBART, TASMANIA, AUSTRALIA  
1 to 4 December 2019, Institute for Marine and Antarctic Studies, Hobart, Tasmania

**Join us for the 12th Polar Law Symposium**

The Institute for Marine and Antarctic Studies (University of Tasmania, Australia) is proud to join the Polar Law Institute (University of Akureyri, Iceland), the Northern Institute for Environmental and Minority Law - Arctic Centre (University of Lapland, Finland), the University of the Arctic and its Arctic Law Thematic Network (Finland) to host the 12th Polar Law Symposium. This will be the second time the event has been held in Tasmania, following the successful 7th Symposium held in 2014.

**Call for Presentations**

The Call for Presentations is now open! Abstracts are due Wednesday 3 April 2019. [Click here for more information.](#)

**Registration**

Registration for the 2019 Polar Law Symposium will be opening on Wednesday 22 May.

[Accommodation](#)

# 第3回研究会のねらい

## 南極基地、航空アクセスなどの現状と その国際法政策的インプリケーションの検討

- 南極基地の増大/大型化/近代化の現状とその法政策的意味(の有無)如何:
  - ・ 南極科学はどこまでどのような意味で利益を得るのか。
  - ・ 必然的に生じる環境的負荷はどのように理解したらよいか。
  - ・ 利用目的の多様化(科学+観光?+軍民両用?)をどう理解するか。中国の南極基地をめぐる議論を例に。
- 南極航空アクセスの現状とその法政策的課題:
  - ・ 日本も利用している航空網DROMLANを例に。
  - ・ 民間業者の南極活動参入拡大をめぐる課題に示唆を与えるか。(観光、バイオプロスペクティング、etc)
- 関連資料・文献をパスワードサイトにアップ